

～よく見る超音波検査の所見用語～

●乳腺症

女性ホルモンのバランスの崩れによって乳腺におこる様々な良性の変化の総称と言われています。30～40歳代におおくみられます。症状は、しこりが触れる、痛み、張り、乳頭からの分泌物などです。月経前になると症状が強くなり、月経が終わると弱まるのが一般的です。

-原因は?-

月経周期による女性ホルモンの変動に反応して乳腺細胞は増殖したり縮小したりします。このホルモン変動のバランスが崩れ強く反応してしまうと、症状が出現します。



●乳腺のう胞

乳腺症の1つで、乳腺の中に液体のたまった袋状のしこりができることです。1～2個程度の人でもいれば数十個とできる人もいます。大きくなったり小さくなったりすることがあります。

-治療は?-

基本的にはただの液体の袋なので治療は必要ありません。

●乳腺線維腺腫(にゅうせんせんいせんしゅ)

20～30歳代に多くみられる良性の腫瘍です。ほとんど痛みがなく、しこりがころころとビー玉のように動くのが特徴的です。大きさは小豆大からくるみ大ほどのものまでさまざまです。

-治療は?-

線維腺腫とはっきり診断がつけば治療は必要ありません。定期的に病院でみてもらいましょう。



●乳管内(のう胞内)乳頭腫(にゅうかんない(のうほうない)にゅうとうしゅ)

30～50歳代に多くみられる、乳房の乳管内(のう胞内)にできる良性の腫瘍です。乳頭から透明～薄い黄色や血性の分泌液が出たり、しこりとして触れることもあります。

-治療は?-

乳管内(のう胞内)乳頭腫とはっきり診断がつけば、治療は必要ありません。定期的に病院でみてもらいましょう。

～よく見るマンモグラフィの所見用語～

●石灰化

乳腺の中にあるカルシウムの沈着物のことです。石灰化の7割以上が良性と言われ、血管や皮膚などの組織の石灰化、乳腺のう胞や繊維腺腫など良性のしこりが石灰化になることもあります。しかし、中には乳がん細胞の一部やがん細胞の周囲の壊死によって石灰化が起こる事もあります。



●腫瘤

何かのかたまりの影があるということです。一般に腫瘤の影が丸くスムーズなものは良性のものが多いです。また、金平糖のように周囲にギザギザのびる影のある腫瘤は悪性の可能性があります。

●局所的非対称性陰影

マンモグラフィによる写真では左右の乳房の陰影がほぼ対称的に写るのが一般的です。しかし、左右が非対称である場合はそこに何らかの病変が考えられます。腫瘤というほど輪郭がはっきりしていない場合などに局所的非対称性陰影といいます。しかし、左右非対称な乳腺もあり、乳腺の一部が局所的非対称性陰影として写ってくる場合もあります。



●構築の乱れ

乳腺は、乳首を中心に放射線状に広がっています。しかし、それに交差するように線が走って乳腺が途切れていたり、どこか一部分がひきつれているような場合には、そこに何か隠れている場合があります。このように正常な乳腺の構造が乱れている場合を構築の乱れといいます。
・手術をした場合は、その部分が引き連れる事がありますが、ある種のがんは周囲の組織を引き込みながら大きくなっていくものがあり、このような場合も乳腺の引きつれや断裂が見られます。